

九州観光専門学校 学校情報

① 学校の概要

【学校の概要】

校長名：仮屋 睦幸

所在地：812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-8-24

連絡先：092-474-9232（代表）

設置者名：学校法人A d a c h i 学園

代表者名：安達 暁子

【学校の沿革】

設立認可年月日 1967年1月12日

設置認可年月日 1983年3月29日

【学校の特徴】

職業実践的な教育として全学科インターンシップによる現場学習を行っている。学生への就職活動の支援として学校独自に企業を招聘し業界研究を行ない学生の業界、仕事理解を推進している。本学園内に隣接する3校の姉妹校を有し、お互いの学校の専門性を活かしながらコラボレーションを通じて、コミュニケーション能力の向上がはかれる企業環境を自然に創出している。

また、福岡市の経済の中心地であり、九州の交通の拠点でもある博多駅前に立地も特色として上げられる。JRを始めバス等のアクセスの良さは通学の利便性はもちろん、就職活動にも効果を発揮している。

【運営方針】

立案としては、教育に関わる学校計画は教育部門の「学務部」、学園全体の予算計画を「事務局」、広報活動の計画を「入試広報部」から持ち寄り、この3部門の意見を交えた上で出された方針を基に、本学園の理事会での審議を受け、意思決定されたものが学校運営に活かされている。運営方針については各年度当初に開催される理事会で学園の運営方針が決定され、教職員に周知される。

運営方針に沿った各業務や教育活動が遂行され、報告、随時見直し検討がなされている。

② 学校の教育目標及び計画

【学校の教育理念、教育目標】

九州観光専門学校（以下、本校という）は、「学校法人 Adachi 学園」 創立者で初代理事長・安達建之助の「建学の理念」に則り、昭和58年4月福岡市博多区博多駅前3-8-24に開校した。商業実務専門課程の中に昼間部（2年制7学科）を設置し、ホテル・鉄道・旅行・エアライン・ブライダル・スイーツ&カフェ・観光ビジネス・韓国語等の教育を行っている総合観光サービス専門学校である。

Adachi 学園の教育理念とし、「ひとりでも多くの学生に心のふれあいと、あらゆる技術を向上させ最大の満足を提供する。そして学園の繁栄、教職員の幸福、地域社会への貢献を目指す。」と定めている。

経営方針については学校の将来構想について、平成19年度から事業計画（学校計画）を作成している。その中で学園の綱領（建学の理念、教育理念、教育目標、経営理念、経営目標）を踏まえ、教育改革の推進と産学協同による実践的な教育の更なる質の向上を目指すとともに学校運営の基盤の安定を図っている。

【教育指導計画】

「観光・サービス分野の第一線で通用する知識、スキル及びホスピタリティの心を育てる」という学校の教育理念を実践するにあたり、「職業実践型教育」を掲げ業界との連携による産学教育を推進している。また社会人としての基礎能力及び豊かな人間性を育む教育を行っている。

- 1、規範意識をもたせ、節度ある生活態度、習慣を育成する。
(4月入学時合同研修による指導を行い、年間スケジュールの元、資格取得、就職活動、自己啓発目標などの計画を立て、進捗状況の確認のため定期的に個別指導を行う)
- 2、学校行事を通じて心身の成長をサポートし、自ら意識して取り組む姿勢を育成する。
(年間のイベントを通し協調性、リーダーシップ力を育成)
- 3、志を高め体系的な就職指導を行う。
(現場研修、業界人講話、企業研究を通し、目標を明確に定め、進路を決めていく)

【その他の諸活動に関する計画】

- 学校安全計画 各教室に火元責任者を設置、全校生徒での避難訓練を実施
- 「開かれた学校づくりを推進し、家庭・地域との信頼関係を深め、保護者対応の機会を増やし、学校教育活動への理解と協力を得る。」そのための活動として「保護者会、保護者対象の授業見学会や企業対象発表会、地域とのつながりを持ったボランティア活動への積極的な参加」を促している。
- 学校保健計画
 - レントゲン検診年1回実施。
 - カウンセラーを配置し学生の心のケアを実施している。
 - 全学生の60%から70%がサービス介助士の資格試験を取得している。

【成績評価】

成績は前期・後期の終了前に、試験・課題・実技試験・出席状況・授業態度などを考慮し、授業担当者が定められた各教科の評価ポイントに基づき成績を判定する。その後、学科長による授業担当者の評価確認を行い、最終的には学校長の確認の元で単位認定を行う。成績はオリエンテーション時に学生本人へ公表し、保護者へ郵送する。評価が悪い学生には担任教諭より指導がなされ補講・補修を行っている。

成績は以下のような5段階評価に基づく。

A=優秀 B=良い C=標準 D=不可(出席50%以上) E=不可(出席50%未満)

GAP 評価制度による客観的な評価については学内で行う。

ポイント変換：A=4 B=3 C=2 D=1 E=0

算出方法：(全教科の評価ポイントの合計) ÷ 総単位数 (履修登録単位の総数)

【卒業認定】

卒業の認定方針については年度開始前に行われるカリキュラム会議にて、各学科の特性、業界で必要とされる知識やスキルを踏まえ卒業要件が決定される。

- ・卒業規定として学則に定める履修時間(卒業時1,920時数)を履修していること
- ・94単位以上を取得していること
- ・学費を全納していること

なお、これらの卒業条件については学生と保護者へ入学時オリエンテーションにて案内している。

【定員数】

全学科2年課程 昼間部のみ

学科	修業年限	入学定員	総定員
ブライダル学科	2年昼	20人	40人
ホテル学科	2年昼	30人	60人
鉄道サービス学科	2年昼	40人	80人
旅行学科	2年昼	20人	40人
エアライン学科	2年昼	30人	60人
スイーツ&カフェ学科	2年昼	20人	40人
観光ビジネス学科	2年昼	0人	20人
IT観光学科	2年昼	0人	20人
韓国語学科	2年昼	80人	120人

【カリキュラム】

カリキュラムについては、校長、キャリア長、学科責任者のもとで体系的に編成されている。また、毎年見直しを行い、業界の動向に沿った形で改編し業界の求める人材ニーズに応えられる学生を育成している。

キャリア教育科目を1年次より導入し就職に対する意識の高揚を図っている。

また、学科目標業界のセミナーを年に数回実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。

【カリキュラム】

別表第1-1

観光専門課程 エアライン学科

必修・ 選択の 別	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)		
	前期		後期		前期		後期				
	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数			
必修	ホームルームⅠ	2	32	2	32					64	4
	一般教養	2	32							32	2
	ビジネスコミュニケーション	2	32							32	2
	エアラインゼミナールⅠ	2	32	2	32					64	4
	エアライン受験対策Ⅰ	2	32							32	2
	INFINIセミナーⅠ	2	32	2	32					64	4
	旅客ハンドリングⅠ	2	32							32	2
	航空業界研究	2	32							32	2
	センスアップセミナーⅠ	2	32	2	32					64	4
	英語リスニング	2	32							32	2
	英語文法基礎	2	32							32	2
サービス介助士	2	32							32	2	
必修 選択	企業研修A	2	32	2	32					64	4
	業務英会話Ⅰ	2	32	2	32					64	4
選択	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ			2	32					32	2
	PC	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	エアライン受験対策Ⅱ			2	32	2	32	2	32	96	6
	業務英会話Ⅱ			2	32					32	2
	旅客ハンドリングⅡ			2	32					32	2
	リクルートナビゲーション			2	32	2	32	2	32	96	6
	TOEIC	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英語リスニング演習			2	32					32	2
	CA・GS業務基礎			2	32					32	2
	時事問題研究					2	32			32	2
	ビジネス能力					2	32			32	2
	PCスキル					2	32			32	2
	スキルアップセミナー	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	CA・GS業務ワーク					2	32	2	32	64	4
	グランドハンドリング	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	サービス実践	2	32	2	32					64	4
	サービスクリエイト					2	32	2	32	64	4
	ホームルームⅡ					2	32	2	32	64	4
	エアラインゼミナールⅡ					2	32	2	32	64	4
	INFINIセミナーⅡ					2	32	2	32	64	4
	センスアップセミナーⅡ					2	32	2	32	64	4
	スキルアップトレーニング					2	32	2	32	64	4
	ビューティトレーニング					2	32	2	32	64	4
	英語リスニングワーク					2	32	2	32	64	4
	社会システム概論							2	32	32	2
	ビジネススキル							2	32	32	2
	英会話			2	32	2	32	2	32	96	6
	英語検定セミナー	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
中国語	2	32	8	128					160	10	
選択ゼミナールA	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16	
選択ゼミナールB	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16	
選択ゼミナールC	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16	
選択ゼミナールD	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16	
企業研修BI	15	240	15	240	15	240	15	240	960	60	
企業研修BⅡ					15	240	15	240	480	30	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		24	384	8	128	0	0	0	0	512	32
必修選択科目履修時数		2	32	2	32	0	0	0	0	64	4
選択科目履修時数		4	64	20	320	30	480	30	480	1632	84
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※必修選択科目として「企業研修A」もしくは「エアライン業務英会話」のいずれかを選択する事

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-2

観光専門課程 鉄道サービス学科

必修・ 選択の 別		第1学年				第2学年				授業時 数合計	(単位)
		前期		後期		前期		後期			
		週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数		
必修	ホームルーム I	2	32	2	32					64	4
	一般教養	2	32							32	2
	ビジネスコミュニケーション	2	32							32	2
	プレゼンテーション	2	32							32	2
	鉄道就職試験セミナー I	2	32							32	2
	国内観光地理	2	32							32	2
	JR運賃料金	2	32							32	2
	国内旅行業務セミナー	4	64							64	4
	旅行業法	2	32							32	2
	旅行業約款	2	32							32	2
	国内観光地理			2	32					32	2
	鉄道概論			2	32					32	2
	鉄道業務基礎			2	32					32	2
	接客業務基礎			2	32					32	2
	サービス介助士	2	32							32	2
表現技法 I	4	64	4	64					128	8	
必修 選択	鉄道旅行企画	2	32	2	32					64	4
	鉄道ゼミナール I	2	32	2	32					64	4
選択	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ			2	32					32	2
	PC基礎			2	32					32	2
	鉄道就職試験セミナー II			2	32					32	2
	リクルートナビゲーション			2	32	2	32	2	32	96	6
	アナウンス基礎			2	32					32	2
	ホームルーム II					2	32	2	32	64	4
	時事問題研究					2	32			32	2
	ビジネス能力					2	32			32	2
	PCスキル					2	32			32	2
	表現技法 II					4	64	4	64	128	8
	就職試験セミナー					2	32	2	32	64	4
	国内地理セミナー					2	32	2	32	64	4
	日本観光研究					2	32	2	32	64	4
	鉄道研究					2	32	2	32	64	4
	鉄道業務総合					2	32	2	32	64	4
	鉄道ゼミナール II					2	32	2	32	64	4
	旅行プランニング					2	32	2	32	64	4
	接客英会話基礎			2	32	2	32	2	32	96	6
	サービス実践	2	32	2	32					64	4
	サービスクリエイト					2	32	2	32	64	4
	社会システム概論							2	32	32	2
	ビジネススキル							2	32	32	2
	PCワーク							2	32	32	2
	航空概論	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	航空業務	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	フィジカルトレーニング	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英語検定セミナー	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32					64	4
	選択ゼミナールA					4	64	4	64	128	8
	選択ゼミナールB					4	64	4	64	128	8
選択ゼミナールC					4	64	4	64	128	8	
選択ゼミナールD					4	64	4	64	128	8	
企業研修A I			4	64					64	4	
企業研修A II			4	64					64	4	
企業研修A III			4	64					64	4	
企業研修A IV			4	64					64	4	
企業研修B I					15	240	15	240	480	30	
企業研修B II					15	240	15	240	480	30	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		28	448	14	224	0	0	0	0	672	42
必修選択科目履修時数		2	32	2	32	0	0	0	0	64	4
選択科目履修時数		0	0	14	224	30	480	30	480	1184	74
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※必修選択科目として「鉄道旅行企画」もしくは「鉄道ゼミナール」のいずれかを選択する事

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-3

観光専門課程 ホテル学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数 合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数		
必修	ホームルーム I	2	32	2	32					64	4
	一般教養	2	32							32	2
	ビジネスコミュニケーション	2	32							32	2
	プレゼンテーション	2	32							32	2
	宿泊業務 I	2	32	2	32					64	4
	ホテル業界研究	2	32							32	2
	H検対策セミナー I	2	32	2	32					64	4
	料飲業務基礎	4	64							64	4
	カクテル基礎	4	64							64	4
	フロントサービス I	2	32	2	32					64	4
	ホテル英会話基礎	2	32							32	2
TOEIC基礎	2	32							32	2	
必修 選択	レストランサービス演習			4	64	4	64			128	8
	バーテンダー演習			4	64	4	64			128	8
選択	企業研修A I	8	128							128	8
	企業研修A II			15	240					240	15
	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ			2	32					32	2
	ホテルリクルートナビゲーション			4	64	2	32			96	6
	ホテル英会話基礎			2	32					32	2
	グループディスカッションワーク			4	64					64	4
	英語面接対策			2	32					32	2
	サービス実践	2	32	2	32					64	4
	サービスクリエイト					2	32	2	32	64	4
	ホームルーム II					2	32	2	32	64	4
	時事問題研究					2	32			32	2
	ビジネス能力					2	32			32	2
	ホテルマネジメント					2	32			32	2
	スキルアップセミナー					2	32			32	2
	ホテル英会話演習					2	32			32	2
	社会システム概論							2	32	32	2
	ビジネススキル							2	32	32	2
	レストランメニュー研究							4	64	64	4
	ビバレッジ研究							4	64	64	4
	宿泊業務 II					2	32	2	32	64	4
	H検対策セミナー II					2	32	2	32	64	4
	フロントサービス II					2	32	2	32	64	4
	英会話			2	32	2	32	2	32	96	6
	英語検定セミナー	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA					4	64	4	64	128	8
選択ゼミナールB					4	64	4	64	128	8	
選択ゼミナールC					4	64	4	64	128	8	
選択ゼミナールD					4	64	4	64	128	8	
ホテルワーク	14	224	14	224	14	224	14	224	896	56	
企業研修B I					15	240	15	240	480	30	
企業研修B II					15	240	15	240	480	30	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		28	448	8	128	0	0	0	0	576	36
必修選択科目履修時数		0	0	4	64	4	64	0	0	128	8
選択科目履修時数		2	32	18	288	26	416	30	480	1216	76
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※必修選択科目として「レストランサービス演習」もしくは「バーテンダー演習」のいずれかを選択する事

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※必修選択科目のうち「レストランサービス演習」か「バーテンダー演習」いずれかを履修する

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-4

観光専門課程 プライダル学科

必修・ 選択の 別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数		
必修	ホームルームⅠ	2	32	2	32					64	4
	一般教養	2	32							32	2
	ビジネスコミュニケーション	2	32							32	2
	アシスタントブライダルコーディネータ基礎	2	32							32	2
	ブライダルゼミナール	4	64							64	4
	パーソナルカラー基礎Ⅰ	2	32							32	2
	センスアップセミナーⅠ	2	32							32	2
	ブライダルサービス基礎	4	64							64	4
	ヘアメイク基礎	2	32							32	2
	ブライダル企業研究	2	32							32	2
必修 選択	ウエディングプランニング	4	64	4	64					128	8
	ドレスコーディネート	4	64	4	64					128	8
	ウエディングセールス	2	32	2	32					64	4
	和装着付作法	2	32	2	32					64	4
選択	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ			2	32					32	2
	プレゼンテーションスキル			2	32					32	2
	パーソナルカラー基礎Ⅱ			2	32					32	2
	センスアップセミナーⅡ			2	32					32	2
	ブライダルアイテム			4	64	4	64	4	64	192	12
	ヘアメイクアップ			2	32	2	32	2	32	96	6
	リクルートナビゲーション			2	32	2	32	2	32	96	6
	時事問題研究					2	32	2	32	64	4
	ビジネス能力					2	32	2	32	64	4
	ホームルームⅡ					2	32	2	32	64	4
	PCスキル	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	サービス実践	2	32	2	32					64	4
	サービスクリエイト					2	32	2	32	64	4
	ウエディング演出					4	64	4	64	128	8
	スキルアップセミナー					4	64	4	64	128	8
	婚礼接客演習					4	64	4	64	128	8
	パーソナルカラー					2	32	2	32	64	4
	ブライダルコンサルテーション					2	32	2	32	64	4
	ドレスショッピングワーク					4	64	4	64	128	8
	英語検定セミナー	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA					4	64	4	64	128	8
	選択ゼミナールB					4	64	4	64	128	8
	選択ゼミナールC					4	64	4	64	128	8
	選択ゼミナールD					4	64	4	64	128	8
	企業研修AI	4	64	4	64					128	8
	企業研修AⅡ	4	64	4	64					128	8
	企業研修AⅢ	4	64	4	64					128	8
	企業研修AⅣ	4	64	4	64					128	8
	企業研修BⅠ					15	240	15	240	480	30
企業研修BⅡ					15	240	15	240	480	30	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		24	384	2	32	0	0	0	0	416	26
必修選択科目履修時数		6	96	6	96	0	0	0	0	192	12
選択科目履修時数		0	0	22	352	30	480	30	480	1312	82
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※必修選択として「ウエディングプランニング」もしくは「ドレスコーディネートワーク」のいずれかを選択すること

※必修選択として「ウエディングセールス」もしくは「和装着付作法」のいずれかを選択すること

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-5

観光専門課程 スイーツ&カフェ学科

必修・ 選択の 別	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)		
	前期		後期		前期		後期				
	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数			
必修	ホームルーム I	2	32	2	32					64	4
	一般教養	2	32							32	2
	ビジネスコミュニケーション	2	32							32	2
	製菓基礎A	8	128	8	128					256	16
	製パン基礎	4	64	4	64					128	8
	パリスト基礎 I	4	64							64	4
	カフェドリンク基礎 I	4	64							64	4
	衛生・栄養学 I	2	32							32	2
調理基礎 I	2	32							32	2	
必修 選択	製パン演習			4	64					64	4
	カフェ演習			4	64					64	4
選択	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ			2	32					32	2
	製菓基礎B	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	製菓基礎C					8	128	8	128	256	16
	ホームルーム II					2	32	2	32	64	4
	パリスト基礎 II			4	64					64	4
	カフェドリンク基礎 II			4	64					64	4
	衛生・栄養学 II			2	32					32	2
	調理基礎 II			2	32					32	2
	サービス実践	2	32	2	32					64	4
	サービスクリエイト					2	32	2	32	64	4
	時事問題研究					2	32			32	2
	ビジネス能力					2	32			32	2
	製菓技法					4	64	4	64	128	8
	製パン技法					4	64	4	64	128	8
	ショップオペレーションSA					4	64	4	64	128	8
	ショップオペレーションSB					4	64	4	64	128	8
	ショップオペレーションBA					4	64	4	64	128	8
	ショップオペレーションBB					4	64	4	64	128	8
	ショップオペレーションCA					4	64	4	64	128	8
	ショップオペレーションCB					4	64	4	64	128	8
	スイーツクリエイティブワークス					8	128	8	128	256	16
	カフェクリエイティブワークス					8	128	8	128	256	16
	社会システム概論							2	32	32	2
	ビジネススキル							2	32	32	2
	英会話	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英語検定セミナー	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	選択ゼミナールA					4	64	4	64	128	8
	選択ゼミナールB					4	64	4	64	128	8
	選択ゼミナールC					4	64	4	64	128	8
選択ゼミナールD					4	64	4	64	128	8	
企業研修AI	4	64	4	64					128	8	
企業研修A II	4	64	4	64					128	8	
企業研修AIII	4	64	4	64					128	8	
企業研修AIV	4	64	4	64					128	8	
企業研修BI					15	240	15	240	480	30	
企業研修B II					15	240	15	240	480	30	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数	30	480	14	224	0	0	0	0	704	44	
必修選択科目履修時数			4	64	0	0	0	0	64	4	
選択科目履修時数	0	0	12	192	30	480	30	480	1152	72	
卒業に必要な総履修時数	30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120	

※必修選択科目として「製パン演習」もしくは「カフェ演習」のいずれかを選択する事

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

必修・ 選択の 別	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)		
	前期		後期		前期		後期				
	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数			
必修	ホームルーム I	2	32	2	32					64	4
	一般教養	2	32							32	2
	ビジネスコミュニケーション	2	32							32	2
	プレゼンテーション	2	32							32	2
	旅行概論	2	32							32	2
	INFINIセミナー	2	32	2	32					64	4
	国内観光地理	2	32							32	2
	JR運賃料金	2	32							32	2
	国内旅行業務セミナー	4	64							64	4
	旅行業法	2	32							32	2
	旅行業約款	2	32							32	2
	旅行ゼミナール	2	32							32	2
旅行プランニング	2	32							32	2	
必修 選択	旅行企画			4	64					64	4
	添乗研修			4	64					64	4
選択	一般常識			2	32					32	2
	ホスピタリティ			2	32					32	2
	PCスキル	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	旅行概論			2	32					32	2
	国内観光地理			2	32					32	2
	添乗業務基礎			2	32					32	2
	リクルートナビゲーション			2	32	2	32	2	32	96	6
	ホームルーム II					2	32	2	32	64	4
	接客業務基礎			2	32					32	2
	総合旅行業務			4	64					64	4
	旅行英会話			2	32					32	2
	サービス実践	2	32	2	32					64	4
	サービスクリエイティブ					2	32	2	32	64	4
	時事問題研究					2	32			32	2
	ビジネス能力					2	32			32	2
	就職試験セミナー					2	32	2	32	64	4
	国内地理セミナー					2	32	2	32	64	4
	旅行カウンター業務					2	32			32	2
	出入国法令					2	32			32	2
	出入国実務					2	32			32	2
	国家試験セミナー					4	64			64	4
	旅行業務英語					2	32			32	2
	社会システム概論							2	32	32	2
	ビジネススキル							2	32	32	2
	旅行企画							4	64	64	4
	海外旅行研究							2	32	32	2
	制作ルーム							4	64	64	4
	韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英語検定セミナー	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	選択ゼミナールA							4	64	64	4
	選択ゼミナールB							4	64	64	4
	選択ゼミナールC							4	64	64	4
	選択ゼミナールD							4	64	64	4
	企業研修A I	4	64	4	64						
	企業研修A II	4	64	4	64					128	8
企業研修A III	4	64	4	64					128	8	
企業研修A IV	4	64	4	64					128	8	
企業研修B I					15	240	15	240	480	30	
企業研修B II					15	240	15	240	480	30	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数	28	448	4	64	0	0	0	0	512	32	
必修選択科目履修時数			4	64					64	4	
選択科目履修時数	2	32	22	352	30	480	30	480	1344	84	
卒業に必要な総履修時数	30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120	

※必修選択科目として「添乗研修」もしくは「旅行企画 I」のいずれかを選択する事

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

別表第1-7

観光専門課程 韓国語学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数 合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数		
必修	ホームルーム I	2	32	2	32					64	4
	ビジネスコミュニケーション	2	32							32	2
	プレゼンテーション I	2	32							32	2
	英会話 I	2	32	2	32					64	4
	PCワーク II	2	32	2	32					64	4
	韓国メディア鑑賞	2	32	2	32					64	4
	韓国文化研究	2	32	2	32					64	4
韓国語・会話と聴解	2	32	2	32					64	4	
選択 必修	韓国語 A	10	160	8	64	4	64			288	18
	韓国語 B	10	160	8	64	4	64			288	18
	韓国語 C	10	160	8	64	4	64			288	18
選択	韓国語 D	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	韓国語 E					4	64	4	64	128	8
	韓国語 F							8	64	64	4
	韓国語・コミュニケーション	2	32	2	32					64	4
	韓国語・文字と発音	2	32	2	32					64	4
	韓国語・語彙と文法	2	32	2	32					64	4
	韓国語・文法と構文					2	32	2	32	64	4
	韓国語・読解と作文					2	32	2	32	64	4
	韓国文化論					2	32	2	32	64	4
	韓国事情研究					2	32	2	32	64	4
	英語で学ぶ韓国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	TOPIK基礎	2	32	2	32					64	4
	TOPIK対策 (2・3級)	2	32	2	32					64	4
	TOPIK対策 (4・5級)			2	32	2	32			64	4
	TOPIK対策 (6級)					2	32	2	32	64	4
	就職対策	2	32	2	32					64	4
	韓国大学編入対策					2	32	2	32	64	4
	Listening & Speaking	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	英検/TOEIC対策	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	プレゼンテーション II	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	サービス接遇	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	日本事情研究	2	32							32	2
	ホスピタリティ			4	64					64	4
	時事問題研究					2	32			32	2
	ビジネス能力					2	32			32	2
	サービス実践	2	32	2	32					64	4
	サービスクリエイト					2	32	2	32	64	4
	フロントサービス					2	32	2	32	64	4
	ホテル業界研究					2	32			32	2
	宿泊業務演習					2	32	2	32	64	4
	CA・GS業務			2	32	2	32	2	32	96	6
	グランドハンドリング					2	32	2	32	64	4
	INFINIセミナー					2	32	2	32	64	4
	添乗業務基礎			2	32					32	2
	総合旅行業務			4	64	4	64			128	8
	出入国法令					2	32			32	2
	出入国実務					2	32			32	2
	旅行企画							4	64	64	4
	英会話 II					2	32	2	32	64	4
	旅行業務英語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
中国語	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8	
企業研修A	8	128	15	240					368	23	
企業研修B I					15	240	15	240	480	30	
企業研修B II					15	240	15	240	480	30	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		8	128	6	96	0	0	0	0	224	14
必修選択科目履修時数		10	160	8	128	4	64	0	0	352	22
選択科目履修時数		12	192	16	256	26	416	30	480	1344	84
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間数以上を履修する事

※選択必修科目のうちA~C何れか1教科を選択し必ず履修する事

※インターンシップは別に定める規定により選択科目の履修とみなす

【学習の成果として取得を目指す資格、検定等】

全学科共通	サービス接客検定	実務技能検定協会
	ビジネス能力検定	職業教育・キャリア教育財団
	WERD文書処理技能検定試験	サーティファイ
	Excel表計算技能検定試験	サーティファイ
	秘書検定	実務技能検定協会
	ビジネス電話検定	実務技能検定協会
ブライダル学科	アシスタントブライダルコーディネーター	日本ブライダル文化振興協会
	パーソナルカラーコンサルタント	日本カラーミーアシーズン社
ホテル学科	レストランサービス技能検定	日本ホテルレストランサービス技能協会
	ホテルビジネス実務検定	日本ホテル教育センター
	実用英語技能検定	日本英語検定協会
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
	TOEIC	国際ビジネスコミュニケーション協会
鉄道サービス学科	国内旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会
	総合旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会
	サービス介助士	日本ケアフィット共育機構
	旅行地理検定	旅行地理協会
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
	実用英語技能検定	日本英語検定協会
旅行学科	国内旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会
	総合旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会
	旅行地理検定	旅行地理協会
	AXESS 国内・国際	アクセス国際ネットワーク
	実用英語技能検定	日本英語検定協会
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
エアライン学科	AXESS 国内・国際	アクセス国際ネットワーク
	実用英語技能検定	日本英語検定協会
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
	TOEIC	国際ビジネスコミュニケーション協会
	サービス介助士	日本ケアフィット共育機構
スイーツ&カフェ学科	食品衛生責任者	福岡県食品衛生協会
	AXESS 国内・国際	アクセス国際ネットワーク
IT 観光学科	MOS 試験	オデッセイ テスティングセンター
	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会
	TOEIC	国際ビジネスコミュニケーション協会
韓国語学科	韓国語能力試験 (TOPIK)	韓国語教育財団
	TOEIC	国際ビジネスコミュニケーション協会

【卒業生数】

○（令和5年3月）卒業生 141人 就職者数 116人 進学者 9人

【主な就職先】

○ホテル、旅館、レストラン、結婚式場、ドレスショップ、ブライダル映像、ブライダルメイク、鉄道会社、鉄道関連会社、航空会社、航空関連会社、旅行会社、旅行関連会社、洋菓子店、パン製造販売店、カフェ店舗など

企業名はホームページに記載 (<http://www.kyukan.ac.jp/employ.html>)

③ 教職員

【教職員数】

	専任	兼任	合計
教員	18人	40人	58人
職員	3人	0人	3人

【教職員の組織及び専門性】

教員については担当する学科、専攻、担当科目に応じて専門性の高い教員を採用している。採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会への参加を積極的に促し教員のレベルアップを図っている。それらに加えて、教員間の情報共有やコミュニケーションを円滑にする為に定期的に教員ミーティングプログラムを実施している。

また、校長、キャリア長、学科責任者による授業オブザーブも行っている。これらによって授業内容や教授法について各学科や学校全体で把握するとともに授業担当者にフィードバックし授業改善に利用している。

④ キャリア教育（就職支援の取り組み）

- 1年時から就職指導の授業による指導（業界研究、面接指導、履歴書添削など）
- 就職課によるサポート 就職模擬面接の希望制による随時実施
- 就職指導室の活用 資料閲覧、就職課スタッフによる進路相談の対応
- 学校独自で企業を招聘し就職業界セミナーを実施し、企業、業界理解を推進
- 各学科による業界人、卒業生による講話の実施
- 全学科職業実践的な教育としてインターンシップの実施による職場研修の実施
- 時間割の空きを利用し姉妹校の検定対策授業や語学などを選択する事が可能

⑤ 教育活動

4月	入学式／新入生研修
5月	講話
6月	運動会（令和2年より中止）／レントゲン検診
7月	サマーキャンプ研修（令和2年より中止）
8月	夏季休暇
9月	試験期間／ボランティア活動
10月	学園祭（令和2年より中止）／企業研修
11月	資格、検定受験期／校主催業界 EXPO
12月	冬季休暇
1月	海外研修旅行（令和2年より中止）
2月	進級制作発表会／保護者会／試験期間
3月	卒業式

※ 令和2年より、コロナ禍の影響で十分な教育イベントは行われませんでした。

⑤ 生徒指導・生活指導

【方針・基準】

- 入学時オリエンテーションにて「学習の手引き」に添って伝達、指導を行っている。（受講上の注意、学園生活上の注意、通学手段、アルバイト時間、指導、休暇、欠席・遅刻連絡方法、単位取得、卒業の規定、研修旅行、教育イベントスケジュールなど）
- クラス担任制：担任により学生、保護者からの相談に対応している。
- 学期ごとに学生アンケートを取り学びの状況、環境などを把握し、改善を図っている。
- カウンセラーを置き学生の心のケアを行っている。
- 保護者会の実施 年1回～2回 学習状況、アルバイト、進路相談など保護者と連携を取り学生の指導、支援を行っている。

⑥ 学生募集・学生の納付金

本校の学生募集活動では、学習内容・教育成果・卒業後の進路など正しい情報を分かりやすく伝えることに重点を置いております。より理解を深めてもらった上で進路の決定をしてもらうため、オープンキャンパスや体験入学、説明会を多く開催いたしております。進学 mismatches を防ぐよう、保護者の来校と体験入学への複数回の参加を勧めております。さらに高等学校の先生に授業の様子を見て頂く見学会を頻繁に実施し、在校生との面談などを含めて教育の実際を理解いただくよう努めております。

1. 学生納付金

	入 学 金	設備費 (年額)	授業料 (前期)	授業料 (後期)	合 計
1 年全学科	100,000	239,000	330,000	330,000	999,000
2 年全学科		239,000	330,000	330,000	899,000

2. 各種奨学金等

① 校友会特別奨学生

○ご家族(2等親以内)に卒業生がおられる場合2人目以降の入学金を全学免除します。

○兄弟・姉妹で同時に入学される場合は、2人分の入学金200,000円全額免除します。

② 日本学生支援機構の奨学金制度(第一種奨学金、第二種奨学金、給付型)

③ 新聞奨学生制度(毎日新聞育英会、西部読売育英奨学会)

3. 学生の受け入れ方法

●AO 入学 ●推薦入学 ●指定校推薦入学 ●一般入学 ●併願入学

⑧ 学校の財務

資金収支計算書

令和4年4月1日 から

令和5年3月31日 まで

(単位：円)

	2022年度 令和4年度
学生生徒等納付金収入	13,289,651,673
手数料収入	135,835,703
付随事業・収益事業収入	412,554,838
雑収入	21,249,670
借入金等収入	0
前受金収入	9,833,172,425
その他の収入	1,436,444,381
資金収入調整勘定	-10,686,587,473
前年度繰越支払資金	13,618,350,462
収入の部合計	28,871,030,809
人件費支出	3,391,034,652
教育研究経費支出	2,672,837,950
管理経費支出	2,928,951,234
借入金等利息支出	582,567,429
借入金等返済支出	600,000,000
施設関係支出	383,803,882
設備関係支出	335,208,711
資産運用支出	0
その他の支出	2,113,096,831
資金支出調整勘定	-929,563,078
翌年度繰越支払資金	16,793,093,198
支出の部合計	28,871,030,809

事業活動収支計算書

令和4年4月1日 から

令和5年3月31日 まで

(単位：円)

	2022年度 (令和4年度)		
	予算	決算	差異
教育活動収支			
教育活動収入	14,760,543,986	14,317,647,769	442,896,217
学生生徒等納付金	13,770,461,986	13,289,651,673	480,810,313
手数料	157,599,000	135,835,703	21,763,297
その他	832,483,000	892,160,393	-59,677,393
教育活動支出	10,094,589,902	10,010,123,054	84,466,848
人件費	3,302,413,678	3,357,207,052	-54,793,374
教育研究費	3,901,123,617	3,688,888,940	212,234,677
(減価償却費)	(1,052,721,424)	(984,844,375)	(67,877,049)
管理経費	2,890,052,607	2,951,228,822	-61,176,215
(減価償却費)	(57,730,476)	(64,009,355)	(-6,278,879)
徴収不能額等	1,000,000	12,798,240	-11,798,240
教育活動収支差額	4,665,954,084	4,307,524,715	358,429,369
教育活動外収支			
収入	338,000	410,636,134	-410,298,134
支出	650,000,000	589,859,109	60,140,891
経常収支差額	4,016,292,084	4,128,301,740	-112,009,656
特別収支			
収入	0	15,294,706	-15,294,706
支出	0	49,778,051	-49,778,051
基本金組入前当年度収支差額	4,016,292,084	4,093,818,395	-77,526,311
基本金組入額・取崩額	0	-535,740,894	535,740,894
当年度収支差額	4,016,292,084	3,558,077,501	458,214,583

※ () 内は、内数

損益計算書
収益事業

令和4年4月1日 から
令和5年3月31日 まで

(単位：円)

	2022年度 令和4年度
売上高	557,025,286
売上原価・販売費及び一般管理費	279,306,283
営業利益	277,719,003
営業外収益	1,207
営業外費用	26,239,582
経常利益	251,480,628
特別利益	39,000
特別損失	427,360,676
学校会計繰入前利益	-175,841,048
当期純利益	-585,977,532

貸借対照表

公益・収益合算
令和5年3月31日

(単位：円)

	公益事業	収益事業	合計
資産合計	230,117,232,325	8,819,651,424	238,936,883,749
固定資産	213,244,505,821	8,183,421,710	221,427,927,531
流動資産	16,872,726,504	636,229,714	17,508,956,218
負債合計	41,550,095,959	172,283,515	41,722,379,474
固定負債	29,699,020,200	0	29,699,020,200
流動負債	11,851,075,759	172,283,515	12,023,359,274
(前受金)	(9,833,172,425)	(168,277,344)	(10,001,449,769)
純資産合計	188,567,136,366	8,647,367,909	197,214,504,275
公益事業勘定	0	26,685,652,984	26,685,652,984
基本金	211,125,325,398	0	211,125,325,398
消費差額累計または繰越利益	-22,558,189,032	-18,038,285,075	-40,596,474,107
(当期収支)	(4,093,818,395)	(0)	(4,093,818,395)
(当期利益)	(3,558,077,501)	(-585,977,532)	(2,972,099,969)
負債・純資産合計	230,117,232,325	8,819,651,424	238,936,883,749

※ () 内は、内数

財産目録

令和5年3月31日

(単位：円)

	価 格
基本財産	183,461,698,317
校地	162,023,619,593
校舎	8,395,415,858
その他の土地	8,999,093,871
その他の建物及び設備	3,179,927,120
教具・校具・什器備品	863,641,875
運用財産	55,475,185,432
現金	4,633,406
預金	18,355,820,217
その他	37,114,731,809
負債	41,722,379,474
固定負債	29,699,020,200
流動負債	12,023,359,274
正味資産	197,214,504,275

監査報告書

令和5年5月31日

学校法人 Adachi 学園
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 Adachi 学園

監事

高野善生

監事

松本 拓生

私たちは、学校法人 Adachi 学園の監事として、私立学校法第37条第4項および寄附行為第18条の定めに基づいて、同学園の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）における財産目録および計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、および収益事業に係る貸借対照表、損益計算書）を含め、学校法人の業務および財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務および財産に関する不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以上

⑨ 学校評価

自己点検結果(評価対象年度:令和3年度/評価年度:令和4年度)

本校では、学期末毎に行う学生アンケートを基に授業内容や設備投資などの改善・改良の指標としてまいりました。平成24年度からは文部科学省『専修学校における学校評価ガイドライン』を参考に評価項目を設定し、多岐に渡る着目点から点検することでの自己評価を提示に至っております。今後は、この学校自己評価の結果を活かし、更なる教育の質の向上をはかってまいります。

評価ポイント (5・・・大変適切 4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切)

(③ → ④ は改善がはかれたとの評価 ④ → ③ は改悪となったとの評価)

自己点検の項目ごとの評価ポイントです

基準1 教育理念・目的・育人人材等	自己評価					修正
1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	⑤	4	3	2	1	
1-2 学校の特色は何か	⑤	4	3	2	1	
1-3 学校の将来構想を抱いているか	⑤	4	3	2	1	
学校の綱領は以下の通り明確にしている。						
○ 学校の教育理念						
「ひとりでも多くの学生に心のふれあいと、あらゆる技術を向上させ最大の満足を提供する。そして学園の繁栄、教職員の幸福、地域社会への貢献を目指す。」						
○ 学校の教育目的・育人人材像						
1、規範意識を持たせ、節度ある生活態度、習慣を育成する。						
2、学校行事を通じて心身の成長をサポートし、自ら意識し取り組む姿勢を育成する。						
3、志を高め体系的な就職指導を行う。						
4、開かれた学校づくりを推進し、家庭・地域社会との信頼関係を深める。						
本校の特色として、隣接する学園4校・30以上の学科を有し、デザイン系、映像・音響系、ビジネス系、観光系のそれぞれ異業種のプロを育成し、現場・業界と同様に協働できる環境を提供している。また、福岡市の経済の中心、九州の交通の拠点でもある博多駅前の立地も特色としてあげられる。JRを始めバスなどのアクセスの良さは通学の利便性からも伺え、就職活動にも効果を発揮している。						
学校の将来構想について、平成19年度から事業計画(学校計画)を作成している。その中で学園の綱領(建学の理念、教育理念、教育目標、経営理念、経営目標)を踏まえ教育改革の推進と産学協同による実践的な教育の更なる質の向上を目指すとともに学校運営の安定を図っている。						

基準2 学校運営	自己評価					修正評価
2-4 運営方針は定められているか	5	④	3	2	1	
2-5 事業計画は定められているか	5	④	3	2	1	
2-6 運営方式や意思決定機能は、効率的なものになっているか	5	④	3	2	1	
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	⑤	④	3	2	1	改善
2-8 意思決定システムは確立されているか	5	④	3	2	1	
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	④	3	2	1	

毎年度、当初に開催される理事会で学園の運営方針が決定され、教職員に周知される。日常業務においては、エリア毎に責任者会議・運営会議が定期的に行われ、それぞれの学校、セクションに周知され、運営方針に沿った業務や教育活動が遂行され、報告、随時見直し検討が成されていく。事業計画は年度毎に各学校で作成される。これらは理事長、代表理事、校長ほか理事の承認を得て、年度当初の各校全体会議において教職員に発表され周知される。執行状況は、各セクションが進捗を把握し、月末もしくは随時総括し報告する。また、上記を要約した「事業計画」や「事業報告書」は毎年度末の理事会で決議した上で、私立学校法に従い 5月末に整備し関係者から要請があった場合、閲覧に供している。運営組織については「組織図」において明確に示されている。学務部、広報部、事務局の各セクションは、常に業務計画に従ってそれぞれの業務を遂行し、かつ有機的に連携し機能している。「理事会」と「評議員会」は学校法人運営について定めた「Adachi学園寄附行為」により、また責任者会議や各運営会議など主要な会議はその他の規定により明確に位置づけられ定期的に開催し、それぞれの議案の審議にあっている。以上のような組織運営体制は長年の実績があり、効率的であると判断出来る。教職員の就業および給与等の事項は、就業規則や給与規定において明確に定められている。年俸制の取り入れ、残業等のみなし残業時間の対応など、新たな給与システムの導入を図り、労基に定められた年間5日以上の有給取得を義務化。教員の専門性については、採用時に精査しているが、経年変化による教育効果の把握が課題で、今後は実績についての本人の申告、資格取得、研修受講、校内の授業評価、学校運営への貢献度等により定期的に個人面談を含め、十分把握出来るシステムを導入。「組織図」によって業務内容・範囲の基本が示されており、各事案の立案や報告は各セクションの責任者に於いて文書化。それらは、学校長の承認を得て確定事項となる。また、特に重要な案件や新規案件、大規模な変更があった事項等は、稟議システムで具申し、検討を重ねて学園本部に付議され、結果が関係者に周知される。情報システムについては、学園基幹システムの構築と運用サポート全般を担うセクションを設け、学籍・成績・出欠・学費等を統括管理する学生管理システムを独自に構築している。学校管理業務用には給与管理システム、財務管理等も整備し、業務の効率化を図っている。

基準3 教育活動	自己評価					修正評価
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向づけされているか	5	④	3	2	1	
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	⑤	4	3	2	1	
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	5	④	3	2	1	
3-13 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けされているか	5	④	3	2	1	
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	⑤	4	3	2	1	
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	5	④	3	2	1	
3-16 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか	5	④	⑤	2	1	改善
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	④	3	2	1	
3-18 資格取得の指導体制はあるか	5	④	3	2	1	

業界ニーズの把握については、就職担当を始め、教科担当が学科目標を業界・企業に直接働きかけ、意見をヒアリングし、キャリアリーダーや学務責任者がそれぞれカリキュラムに反映させるようにしている。各学科の修業年限に対応した教育レベルは校長、キャリアリーダー、学科責任者により設定され、学務会議等を通じて教員間で共有されている。その情報は、各教科の到達レベル設定に反映され、体系的に編成されている。また、毎年見直しを行い業界の動向に沿った形で改編し、業界の求める人材ニーズを見据えた教育の方向性を見出している。カリキュラム編成にあたっては、「専門学校設置基準」に基づき、各専攻とも授業実施時間数、期間、総時間数を設定している。演習科目については必要に応じて講義科目での解説時間を設けた上で配分している。好きを仕事にし、多くの方々に喜びや感動を届ける職業人を育成する。現状、業界の入り口に立つための教育レベルは明確に設定されているが、今後は各種業界で、より即戦力・即著名になるような質の向上を図っていかねばならない。キャリア(就職指導部)を軸とした2.5年教育のストーリーを時間軸で設定し、体系的編成の実施が必要である。授業シラバスについては、講師会等を通じて学科ごとの目標と指導内容、指導方法、評価方法も明確にしている。さらに全教科の授業1コマ毎のシラバスを「コマシラバス」と呼んで、目的・内容・到達目標を学科毎に責任者に提出する体制を整えている。カリキュラムは時代・業界が著しく変化する中で、毎年を設定を変化させていくことが必要。業界就職を行う上で、確実に必要なもののみ取得させる授業内容を組み込む。キャリア教育科目を1年次より導入し、学科目標については、業界のセミナーを年数回、実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。全学科キャリア形成を見た上でのカリキュラム・教育方法を検討し、実施している。学生による授業評価は、前期と後期の年2回、学生アンケートにより実施している。また、校長、キャリアリーダー、学科責任者による授業オブザーブも行っている。これらによって 授業内容や教授法について各学科や学校全体で把握するとともに授業担当者にフィードバックし、授業改善に利用している。教員については担当する科目に応じて、専門性の高い教員を採用している。採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会への参加を積極的に促し、教員のレベルアップを図っている。人権研修を定期的に行うことで、教員が学生に対する触れ合い方を確認し、過度な指導に入り過ぎないように、また、悩んでいる学生に適切な声かけができるような指導者づくりを心掛けている。

成績評価・単位認定基準は明確に決まっており、学則や教員配布用の学校運営マニュアルに示されている。それに全学生に配布される「学習の手引き」にも詳細が記載されている。ビジネス校、観光校に於いては、資格・検定の取得の必要に応じて、学科ごとの目標としての必修検定・資格を設定している。資格の取得サポートに関しては、対策講座を実施している。

コロナ禍に於いて、リモートによる授業運営が増えてきた。ただ、技術を養う授業については、長期休暇などを利用し、分散授業等で補えなかった時間をカバーし、就職試験等で有利になるよう指導しているのが現状である。

基準4 教育成果	自己評価					修正評価
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5	④	3	2	1	
4-20 資格取得率の向上が図られているか	5	④	③	2	1	改善
4-21 退学率の低減が図られているか	5	④	3	2	1	
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5	④	3	2	1	

就職希望者の就職は、学科専攻の学習内容、学生状況に応じた就職活動支援体制を整えている。担任と就職担当が常に連携を取り、学生の就職活動をサポートすると同時に、進路ガイダンス、学内企業説明会、学内選考試験、面接試験対策・筆記試験対策・就職支援期間による学内ガイダンスなど就職支援行事を計画的に実施している。6年前より実施している業界EXPO等で、各校ともに就職率が大幅にアップした。ビジュアル校ではジョブカフェも好結果に繋がっている。資格取得の向上策として、試験受験時期に合わせ、全カリキュラムを対策にテーマ変更。必須科目以外でも選択授業で定期・不定期で検定取得のための対策講座を、無料で実施している。退学率については、出席不良者・成績不良者に対し年間を通じて補修・補講の体制を整える事により、ビジネス校や観光校では、入学者に対して、10%を下回っている。学科担当者による欠席指導・学生のカウンセリング体制も整えている。基本的に無断欠席した場合は、学科担当者が学生及び家庭に電話連絡を行っており、授業についていけない学生の補講や単位取得が難しい学生の補修体制も長期休暇中を中心に実施している。保護者との連絡も担任を通じて密に取るようにしており、保護者会、個別相談等を通じて家庭でのバックアップ体制のサポートも行っている。卒業生が就職している企業訪問を重要視し、定期的に訪問を行って情報を収集している。また、校友会活動において、多くの卒業生から学校との繋がりを希望するアプローチがあった。SNSなど有効に使うことで、校友会組織の活性化を進めていきたい。

基準5 学生支援	自己評価					修正評価
5-23 就職に関する体制は整備されている	5	④	3	2	1	改善
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備できているか	5	④	⑤	2	1	
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	④	3	2	1	
5-27 保護者と適切に提携しているか	5	④	3	2	1	
5-28 卒業生への支援体制はあるか	5	4	③	2	1	

就職支援については、キャリア担当者が、年間を通じ学内企業説明会や学生への個別指導を実施している。なお、1年次よりキャリア教科目を全学科で履修するなど万全の支援体制を整えている。学生が抱える諸問題の解決に向けて教員研修として「カウンセリングスキル」を習得する為に実施するなど、学生相談体制の構築に日々努力している。毎週2日間、心理カウンセラーの先生に来て頂いて、学生の心のケアが行える部屋を設置している。利用者は日に日に増えている現状がある。本校では、学生サポートチーム制を設け、日々の学生の出席状況、学習状況を常に把握すると同時に、定期・不定期で彼らの学生生活におけるあらゆる相談に応じる体制を整えている。学費の支払い方法の細かな相談体制を強化し、国からの給付型・貸与型の奨学金などが充実したことで、経済的な面での退学者は減少している。各種奨学金制度の学内案内・書類の取りまとめを実施し、奨学金担当者も常時配置している。

また、できる限り専門技術が発揮出来るアルバイトやインターンの紹介・指導を行っている。健康管理面においては、毎年1回の定期健康診断を実施し、健康指導に勤めている。学生の健康を支援する為に「保健室」を設置して、軽度の疾病については対応出来る体制を整えている。留学生については学費、アルバイト、日常生活、就職などの諸問題について支援する留学生担当者をおいている。

課外活動については、クラブ活動、ボランティア活動、各種行事活動を推奨し、学生の自発的な活動を促し、人間的な成長と共に学生生活、学校生活の満足度向上を図っている。ただ、コロナ禍に於いて、学校や学生が希望するイベントなどへの参加が極端に減少し、満足いく活動は行われていない。

学生寮に関しては、学校専用ではないが学生寮保有業者や信頼のおけるマンション幹旋業者と提携しており、遠隔地の入学希望者に対応している。時には、学生サポートチームが寮を訪問し、管理人を通じて学生の状況把握を行っている。

保護者との連携については、学科担当者を中心に、保護者会や授業体験を積極的に実施している。学校の運営や学生状況の共有を図っており、必要に応じて保護者との個人面談も実施している。その結果、保護者会参加者の満足度は高いと思われる。

卒業生支援として、既卒者対象求人情報の提供や進路相談は随時実施している。今後は、卒業生・在校生を対象に「校友会」の組織の活性化を図っていこうと考えている。

基準6 教育環境	自己評価					修正評価
6-29 施設・設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	④	3	2	1	改善
6-30 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	⑤	④	3	2	1	
6-31 防災に対する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	

施設・設備は、実習教室を始め、すべての教育環境の見直しを年1回行っている。設備投資に関しては、事業計画(学校計画)に基づいて議論される。教育理念・教育目標、それを具現化したカリキュラムに沿った投資計画でなければならない。学校毎の協議を経て、最終的に「理事会」で決済承認される。施設・設備の更新に関しては計画を立て、進捗状況を把握して計画通りに進んでいる事を確認して、計画の立案と実施体制を整えている。

企業及び提携期間と連携しながら、学外実習、インターンシップ、海外研修等の体制を整備・実施している。授業・研修等の実施前後に実施要領、報告書などを提出させ、カリキュラムや各専攻の目標との整合性を常に確認している。今年から留学制度の充実をグループ全体で掲げ、コロナ禍にも関わらず、アメリカや韓国への留学生を排出できた。また、語学教育の重要性を説き、アメリカとオンラインによるクラス別の英会話の授業を開始した。

防災については緊急時の体制を消防署の協力のもと、「自主消防隊」を組織化すると共に、必要な書類・機器を定期点検・整備している。なお、C館校舎に関して、旧耐震の建物であったことから、平成27年3月に耐力不足を補う耐震工事を行っている。

基準7 学生の募集と受け入れ	自己評価					修正評価
7-32 学生募集活動は、適正に行われているか	5	④	3	2	1	改善
7-33 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	4	③	2	1	
7-34 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか	5	④	3	2	1	
7-35 学納金は妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1	

本校の学生募集活動の基本は、学習内容・教育成果・卒業後の進路などの正しい情報を分かり易く伝えることに重きを置いている。また、より深い理解のもとで進路を考えてもらうためにオープンキャンパスや説明会を準備したものの、コロナの影響で緊急事態宣言中はリモートによる開催となってしまった。ただ、遠方であることで、来校が難しい地方の学生や保護者が気軽にWebによる体験入学に参加できたことで、進学 mismatches を防ぐことが出来たと考えられる。会場や高校での説明会は激減したことで、直接、学校説明を施す機会が失われた。高校訪問も十分に出来ない状況下、在学生や卒業生の状況・資格検定の取得状況など、これまで行ってきた広報活動も大きな変化をもたらした。

入学選考については、高等学校の調査書に重きを置き、入学要項にその旨記載している。入学前授業に於いて入学希望者との時間を設けることで進路に対する mismatches は防げていると思われる。

学納金については、理事会、評議員会において設備・機材・人材などの教育環境の維持向上に必要な妥当であるか審議し決定している。

基準8 財務	自己評価					修正評価
8-36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているものといえるか	5	④	3	2	1	
8-37 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1	
8-38 財務について会計監査が適正に行なわれているか	⑤	4	3	2	1	
8-39 財務情報公開の体制整備はできているか	5	④	3	2	1	

学校全体での8年程度の財政状況の把握に努めている。毎年、剰余金を出すことで、自己資本比率を高め、基本金組入れ等を行い安定した学校法人会計を目指している。財政基盤の安定を判断する目安としてキャッシュフローの推移を参考にしている。中長期的な観点で、人件費や設備投資などビジョンを持って取り組んでいく必要がある。収支を図る上で、学生数の推移が収入に大きく影響することから、安定した学生数確保が財務基盤のポイントになると思われる。予算執行は経理部で管理し、予算残高は、必要な科目について当該担当者が把握できるよう稟議制度とともにシステムが構築されており、逐次、発生する問題箇所は改善が加えられ、現在の強いシステムに至っている。予算については、各種規定に定められている。予算執行・予算管理システム・稟議制度については相当期間の実績を踏まえ実施されてきており、現状では満足いくものである。収入減が生じるようであれば、人件費や一般経費などの見直しを行い、至急の手立てを図ることで、授業運営上の不具合が生じないようにしている。予算は消費するものでなく、需要を創るという観点に立ち予算執行を行っている。税理士法人の公認会計士による監査は適時実施、会計監査は毎年度実施している。現預金・現金等価物・新規資産・固定資産とある中で、学校運営の基本となる現預金の動きを一番の強化事項として実施している。また、法律改正等を踏まえて、適正に判断されているかを確認するため、日々の監査がおろそかにならないよう学校会計基準との連携を図っている。私立学校法に基づく財務諸表の公開については、平成26年以降、私立学校法の規程に従い、ホームページで公開している。

基準9 法令等の遵守	自己評価					修正評価
9-40 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5	④	3	2	1	
9-41 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	5	④	3	2	1	
9-42 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5	④	3	2	1	
9-43 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	⑤	4	3	2	1	

総合事務局が法令遵守についての総合的な管理にあたり、学校に関わる法令は多岐にわたるが、本年度より顧問弁護士と契約し、法解釈等、不明な事案は随時相談可能となっている。また、各種行政指導や所轄長からの通知などは、各部署に回覧し、周知するとともに、重要な案件については対応を協議している。平成17年4月に「プライバシーポリシー」、「個人情報の取扱いについて」を策定した。学内の体制としては「個人情報保護規則」を作成し、教職員に対して説明会を実施した。また、新採用の際と新年度に於ける講師契約の際は、「個人情報取扱いについての取り決め」を交わし、個人情報の漏洩、紛失、改ざんがなされないことを確認している。法人内にコンプライアンス委員会を設け、教職員が各種ハラスメント対策に対処しやすい職場環境を整えている。自己点検・自己評価は平成24年度から実施しており、毎年行う事で点検評価を改善に役立てていきたい。自己点検・自己評価結果については、学園ホームページで公開している。

基準10 社会貢献	自己評価					修正評価
10-44 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献を行なっているか	5	④	3	2	1	
10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	④	③	2	1	改善

毎週1回、博多まちづくり運動に参加し、清掃活動参加を行っている。また、毎朝、教職員や学生の有志で、学校周辺の清掃活動を行い、たばこのポイ捨てなどの減少とともに街の美観を働かしている。なお、授業の一環としては、老人ホームや障害者施設などを訪れ、奉仕活動を行うことで、バリアフリーやユニバーサルデザインなどを意識させ、子供や高齢者、障害者などの社会的弱者救済が自然の行為として捉えられるよう全学で取り組んでいる。但し、コロナ禍に於いて、様々な活動の自粛要請がなされたこと から、学校としての積極的なボランティアへの支援策を講じることが出来ていない。

学校関係者評価(評価対象年度:令和3年度/評価年度:令和4年度)

平成19年6月 学校教育法が一部改正され、学校評価に関する規定が新たに設けられました。本校に於いては、学校計画を立て教育活動を行って参りました。学校関係者や第三者からの評価を受ける体制はありませんでしたが、平成25年8月30日に文部科学省より『職業実践専門課程』の認定に関する規定が公布され、同日より施行されました。それを受け、企業・団体、卒業生や地域の方々の協力のもと、学校関係者評価を実施し、学校運営の改善と発展に努めています。これは、専門学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としております。

1. 学校関係者評価委員会

学校関係者委員

- 平田 章裕 氏 社団法人 福岡県洋菓子協会 副理事長／ロンボワン代表
- 後藤 大輔 氏 公認会計士／税理士法人アーク・パートナーズ代表
- 荻田 英二 氏 株式会社 荻田商業建築デザイン事務所 代表取締役
- 田中 誠二 氏 オリエンタルホテル福岡 総支配人
- 小川 倫恵子 氏 アミ・シュプール 代表 欠席
- 吉塚 正希 氏 株式会社 映像ボックス 代表取締役社長 欠席
- 福島 眞祐 氏 博多駅前3丁目2区自治会会長
- 藤 厚久 氏 福岡県 博多女子高等学校 教諭
- 藤井 亨 氏 株式会社 Too 福岡支店 支店長
- 溝江 多佳子 株式会社 イクティス 代表取締役 欠席

学校教職員

- 藤 弥生 校長(九州デザイナー学院)
- 稲實 洋祐 校長(九州ビジュアルアーツ)・(九州観光専門学校)
- 渡邊 恵未 校長(九州スクールオブビジネス)
- 有海 慎祐 事務局長代行
- 山本 重春 学生管理リーダー
- 西村 つかさ 事務長(九州デザイナー学院)・(九州観光専門学校)
- 田中 稔 事務長(九州ビジュアルアーツ)・(九州スクールオブビジネス)

2. 学校関係者評価について

評価ポイント (5・・・大変適切 4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切)
 (⑤ → ④ は改善がはかれたとの評価 ④ → ③は改悪となったとの評価)
 学校関係者評価の採点項目ごとの平均ポイントです

基準1 教育理念・目的・育人人材等	学校関係者評価					コメント
1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	⑤	4	3	2	1	●全体的に教職員の発言から、教育理念、目的、育人人材、学校の特色や将来構想は伝わってくる ●教育制度や就職支援の明確化を提示
1-2 学校の特色は何か	⑤	4	3	2	1	
1-3 学校の将来構想を抱いているか	⑤	4	3	2	1	
基準2 学校運営	学校関係者評価					コメント
2-4 運営方針は定められているか	⑤	④	3	2	1	●組織変更を行う上で、給与基準の見直しや労基の徹底など大幅な改善が図られている
2-5 事業計画は定められているか	5	④	3	2	1	
2-6 運営方式や意思決定機能は、効率的なものになっているか	5	④	3	2	1	●職務規定の明確化とともに就業規則の改定や法令遵守の観点から労務管理は正しく行われている
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	5	④	3	2	1	
2-8 意思決定システムは確立されているか	5	④	3	2	1	
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	④	3	2	1	

基準3 教育活動	学校関係者評価	コメント
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向づけされているか	5 ④ 3 2 1	<p>●『業界EXPO』(2.5年教育の体幹・第一エンディング・就活スタート)・夏明けまでに内定・進路決定(キャリアアップ・即戦力能力育成)のキャリアを背骨とした2.5年教育ストーリーを時間軸で設定する体系的編成を実施していく</p> <p>●全国でカリキュラム統一に向け始動、各系での相互理解と改善点を出し合い、エリアを越えた統一に向けて、まず、全エリア参加の教育イベントの実施</p>
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	5 ④ 3 2 1	
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	5 ④ 3 2 1	
3-13 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けされているか	⑤ ④ 3 2 1	
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	⑤ 4 3 2 1	
3-15 授業評価の実施 評価体制はあるか	5 ④ 3 2 1	
3-16 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか	5 ④ 3 2 1	
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5 ④ 3 2 1	
3-18 資格取得の指導体制はあるか	5 ④ 3 2 1	

基準4 教育成果	学校関係者評価	コメント
4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5 ④ 3 2 1	<p>●高い就職率の維持、業界内就職100%を掲げ、就職したその後を見据えた就職指導を行っている</p> <p>●4校全ての学生に向けアメリカの短期留学を提示、TOEICの取得プログラム確立</p> <p>●技術や知識の習得だけではなく、コミュニケーション能力を持ち合わせた学生の育成に注力したことで、業界からの評価は得られている</p> <p>●アメリカや韓国への留学実績が構築された</p> <p>●国家試験対策として、実績ある他エリアの講師によるリモート授業開始</p>
4-20 資格取得率の向上が図られているか	5 4 ③ 2 1	
4-21 退学率の低減が図られているか	5 ④ 3 2 1	
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5 ④ 3 2 1	

基準5 学生支援	学校関係者評価	コメント
5-23 就職に関する体制は整備されている	5 ④ 3 2 1	<p>●『業界EXPO』は軌道に乗ってきており就職決定に導いているが、コロナ禍に於いて苦戦しつつも検討されている</p> <p>●『進路EXPO』と銘打って、全国姉妹校間で系統別による独自の説明会開催、コロナ禍ではリモートによる参加増</p> <p>●給付型奨学金や修学支援制度の実施に向けた学校の取組みに共感</p> <p>●登校できない学生に対し、サテライト授業を実施、そこからクラスに馴染めるよう指導を重ねている</p> <p>●入学前授業についても入学前からギャップを感じないような授業の進め方を模索し、全員が意欲を持てるように指導</p>
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	5 ④ 3 2 1	
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備できているか	5 ④ 3 2 1	
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5 ④ 3 2 1	
5-27 保護者と適切に提携しているか	5 4 ③ 2 1	
5-28 卒業生への支援体制はあるか	5 4 ③ 2 1	

基準6 教育環境	学校関係者評価	コメント
6-29 施設・設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されているか	⑤ ④ 3 2 1	<p>●半導体不足によりパソコンの調達は懸念、遅れはあったものの学べる環境には対処されていると思える</p> <p>●学生が求める職種と業界が求める職種に対し、学校が準備していくべき設備については、状況を確認した上で、導入を図っている</p> <p>●アメリカに語学堂設立や韓国の大学との留学制度確立</p> <p>●全国で大雨等の災害が頻発、災害発生の際に重要となるのは安否確認や保護者からの対応であることから、サーバーや通信機器、連絡網の整備など有事の際の備えは重要と捉え、整備は進行している</p>
6-30 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	5 ④ 3 2 1	
6-31 防災に対する体制は整備されているか	5 ④ 3 2 1	

基準7 学生の募集と受け入れ	学校関係者評価	コメント
7-32 学生募集活動は、適正に行われているか	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ●4校ともに、2.5年教育制度が入学検討者に対し的確に伝わっていることで、募集効果が出ている ●入学検討者や入学者が増えているのは学校の教育方針が正しく伝わっているのでは ●定員に対する実員の状況確認
7-33 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5 ④ 3 2 1	
7-34 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか	5 ④ 3 2 1	
7-35 学納金は妥当なものとなっているか	5 ④ 3 2 1	

基準8 財務	学校関係者評価	コメント
8-36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているものといえるか	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ●学校会計に於いては監査体制を強化し、外部監査に加え、姉妹校間での内部監査を徹底し改善を図った
8-37 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5 ④ 3 2 1	
8-38 財務について会計監査が適正に行なわれているか	⑤ 4 3 2 1	
8-39 財務情報公開の体制整備はできているか	⑤ 4 3 2 1	

基準9 法令等の遵守	学校関係者評価	コメント
9-40 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5 ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ●学園全体でコンプライアンス委員会を設け、常に嘆願できるような窓口を設けた ●発生した問題に対し、即解決に当たる ●顧問弁護士を抱え、法的な問題が生じた場合に対処できるよう整備を行った
9-41 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	5 ④ 3 2 1	
9-42 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5 ④ 3 2 1	
9-43 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	⑤ ④ 3 2 1	

基準10 社会貢献	学校関係者評価	コメント
10-44 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献を行なっているか	⑤ ④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の一環としては、老人ホームや障害者施設などを訪れ、奉仕活動を行っている ●コロナ禍に於いて十分なボランティア活動の場がなかったように見受けられた
10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	⑤ ④ 3 2 1	

⑩事業報告・その他

【事業報告書】

- 新型コロナウイルス感染拡大による世情
コロナ禍に於いて、3年間、イベントの中止や延期などの要請が日本政府から出され、教育に於いても授業の休学など、これまでにない厳しいものであった。経済活動も大幅な落ち込みと外出自粛となったが、これまでと異なり、リモートによる授業の活用につながる等、負の面ばかりでもなかった。
- 学生募集状況
高校ガイダンスや会場ガイダンスもコロナ禍により、中止になるケースが多く見られたが、徐々に各ガイダンスも復活し、対面での開催が増えてきている。そのような状況で行なったリモートによる説明会は盛況で、普段、会場などでは一方的に説明を聞く側の高校生から、多くの質問が浴びせられ、逆に学校のことを理解して貰えたようである。学生募集状況は、順調に推移し、前年並みの入学者数を迎えることができた。
- 設備投資
学内ネット環境の整備、PCハード・ソフトの入替、マンガ学科・韓国語学科・CG映像学科・愛玩動物看護学科など教室の美装を進めるとともに、各教室に空気清浄機を導入、空調の入れ替え、換気扇の改修などコロナ対策と繋がる設備投資が多くを占めている。PC系については半導体不足により導入が大幅に遅れたという例年にない年でもあった。
- 業界EXPO開催
コロナ禍であり、リモートを中心とした学内開催のイベントに変更した。企業の方々も安心感を得られており、学生たちも個々にアピールできる時間が設けられ、有意義なイベントとなった。
今年度より、全国姉妹校間での系統別開催となり、企業の方への負担も軽減できたと思われる。
- アメリカに語学堂を設立、韓国の大学との提携
Adachi学園グループの取組みとして行なっている留学制度については、新型コロナの影響で出入国の規制がなされる中、アメリカや韓国の留学も行われた。
なお、新年度には更に積極的に取り組む動きが出てきている。
- 九州デザイナー学院
産学連携の強化（職業実践専門課程）
学科を越えたコラボレーションや企業との連携を強め実践力を高めていく。学生募集の現状に合わせて入学募集定員を増やした。
- 九州ビジュアルアーツ
社会環境の変化に伴った教育の柔軟変化急速変化・成長する社会環境の中、教育機関九州ビジュアルアーツも常に加速変化・成長。東京・芸能プロダクションとの産学協同「クリエイティブWEB発信プロジェクト」始動。今後は基礎学習のm-ラーニング化と多言語化に取り組む。
- 九州スクール・オブ・ビジネス
愛玩動物看護学科3年コースを新設
動物看護師の国家試験開始を受け、3年コースを新たに設置するとともに新たに文化・教養分野に設置目的を追加する。卒業生についても国家試験受験可能なように申請を行う。
- 九州観光専門学校
業界でアイデアを出せる人材育成。「創造・想像」獲得のためのカリキュラム・教育イベントへ転換。
留学生の夢を叶える他校にはないカリキュラム。韓国語学科に於いては、韓国の複数の大学との提携により、留学生として送り出している。

《 職業実戦専門課程認定学科 》

職業実践専門課程における認定学科一覧

- | | |
|------------------|--------------|
| ○ 九州デザイナー学院 | ○ 九州ビジュアルアーツ |
| グラフィックデザイン学科 | 写真学科 |
| インテリアデザイン学科 | 放送・映画学科 |
| イラストレーション学科 | CG映像学科 |
| ゲーム・CG学科 | 音響学科 |
| マンガ学科 | 声優学科 |
| | 俳優学科 |
| ○ 九州スクール・オブ・ビジネス | ○ 九州観光専門学校 |
| ビューティービジネス学科 | ブライダル学科 |
| ペットビジネス学科 | エアライン学科 |
| フラワービジネス学科 | スイーツ&カフェ学科 |
| | ホテル学科 |
| | 鉄道サービス学科 |

以上 4校 19学科

《 理事・役員名簿 》

令和5年4月1日現在（定員数 理事9名 監事2名）

理事長	安達	暁子
理事	田坂	広志
理事	安井	慎治
理事	大嶋	國雄
理事	植田	宏美
理事	加藤	尚美
理事	伊庭野	基明
理事	高橋	奈帆
理事	清水	禎徳
監事	高野	善生
監事	松本	拓生